

第7章 関連文化財群に関する事項

7-1. 関連文化財群とは

南九州市では、地域の歴史文化の価値を発見し、それらを本市の地域資源を総合的に保存・活用するための枠組として、関連文化財群の考え方を用います。

関連文化財群とは、地域計画を作成するにあたり、指定・未指定を問わず多種多様な有形・無形の文化財を含んだ地域資源を、歴史的・文化的・地域的な関連性やテーマに基づいて、ひとつのまとまりとして捉えたものです。

日本の文化財保護法では、文化財は基本的に単体として指定されます。記念物の名勝・天然記念物や、文化的景観、伝統的建造物群保存地区等は面的に指定できますが、それも文化財の指定範囲に限られます。文化財の本質的価値の保存が図られる一方で、それを取り巻く環境が悪化している場合があります。

本計画において、周辺環境とは、美しい田園、有形・無形の文化財を有する集落、そして背景の丘陵・山々の豊かな自然環境、これらが一体となって往時の面影をとどめる文化的景観、それらを維持・継承するための技術、それらを支える人々の活動等も含めて考えます。

地域資源を取り巻く周辺環境は、保存・活用に影響を及ぼす要因の一つでもあります。環境を整える事で、保存・活用に有利に働く事になる事から、環境の保全のためにも関連文化財群の考え方は有効です。

関連文化財群を設定する事により、地域の歴史文化の魅力や価値を市民や来訪者に分かりやすく伝えるとともに、様々な立場の人同士を連携しやすくし、文化財をまちづくりにつなげていくための取り組みが促進される事を期待します。

7-2. 関連文化財群の考え方

関連文化財群の設定にあたって、設定の基準は以下の2点としました。

A. 地域性

南九州市の歴史文化の特徴を反映したもの

B. 歴史性・時代性

南九州市の歴史文化の特徴を反映し、時代を超えて継承される地域資源であり、市民が地域にとって重要であると考え、守り伝え、魅力を伝えたいと感じるもの



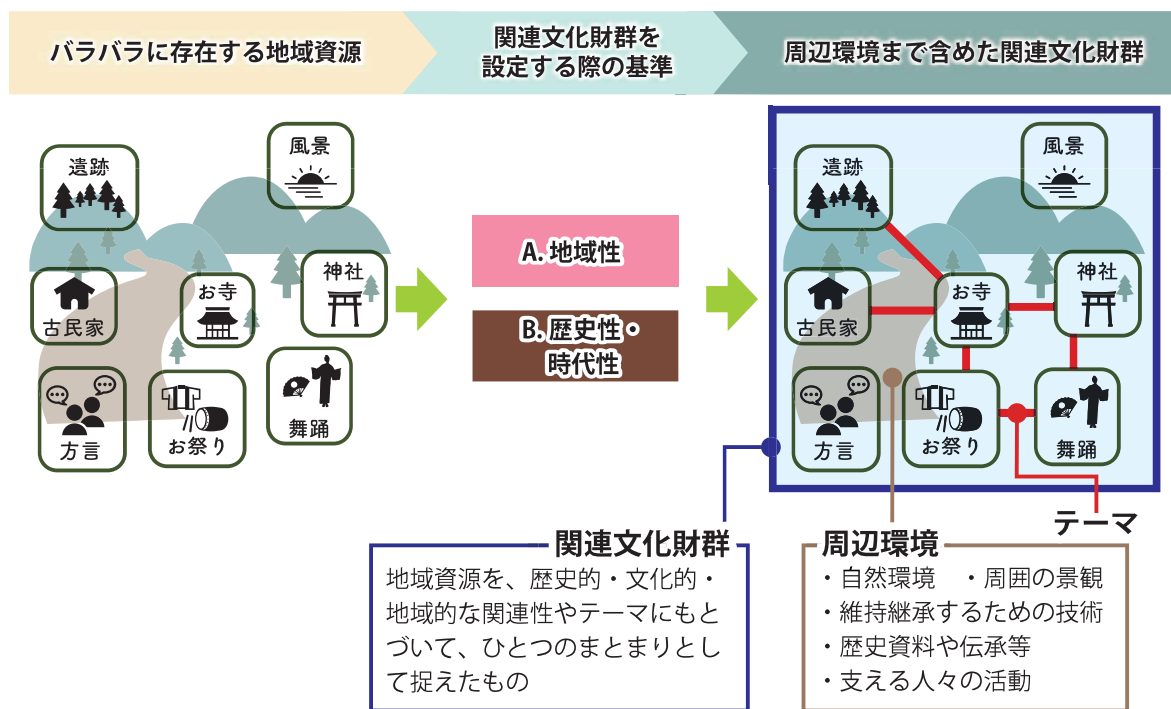


図7-1 関連文化財群の考え方

なお、基準Bについては、市民や団体による活動と接点を持ち、生活者としての市民の実感に近い「お宝（地域資源）」を含むものとしします。本計画作成の一環として実施した「お宝（地域資源）」アンケート調査の成果を反映する事に努め、構成要素の抽出を行いました。

7-3. 南九州市の関連文化財群一覧

南九州市の関連文化財群として、以下のテーマを設定しました。

歴史文化の特徴 島津氏とその家臣団に関する歴史文化	関連文化財群① 「山城から麓へ～島津氏を支えた南薩の群雄～」	
薩摩半島は国内外を結ぶ結節点としての役割を果たしてきました。その支配を巡る合戦の古戦場や戦死者の供養塔が残されています。また島津氏の九州制圧を巡る戦いで大きな役割を果たした家臣団の菩提寺跡や武具、古文書が残り当時の武士の活躍を伝えています。 江戸時代に入ると薩摩藩の「外城制度」により地頭仮屋・領主仮屋と武家集落の「麓」が形成され、政治・文化・信仰の中心として大きな役割を果たしました。これらの武家文化は現在も南九州市の歴史文化に大きな影響を与えています。		
歴史文化の特徴 薩摩の信仰に関する歴史文化	関連文化財群② 「南薩の寺社～受け継がれた人々の祈り～」	
薩摩半島南部は、開聞神にまつわる神社が点在し、現在も地域の人々の心の拠り所としての役割を果たし、現在も近世から続く無形民俗文化財が奉納され、支配者から奉納された国内外の珍しい品々が伝えられています。 薩摩藩では浄土真宗（一向宗）への厳しい弾圧が行われ、人々は隠れ念仏という形で信仰を続けました。明治時代には廃仏毀釈ですべての寺院が破壊されるという苦難の歴史がありました。溶結凝灰岩を用いた中世以来の石造物は、情報が乏しい廃仏毀釈以前の信仰の様子を伝えるものです。		

図5-2 南九州市の関連文化財群一覧



歴史文化の特徴

東アジアと日本の中継点としての歴史文化

東シナ海に面する海岸線には、古代から知られる港を通じて、国内外の文化や品々が持ち込まれ、近世には薩摩藩の財政に大きく寄与しました。輸送を担った海運商人の屋敷や蔵には、関西方面や琉球（沖縄）、海外の品々が残されるとともに、骨粉の使用による農業生産額の拡大等、南九州市の文化や経済の発展に大きな影響を与えました。

関連文化財群③

「海運商人と舶来品」



歴史文化の特徴

南九州の戦争遺跡に関する歴史文化

太平洋戦争中、九州南部には多くの飛行場が建設され、特別攻撃隊の出撃に用いられました。また本土上陸作成に備えて「護南師団」と呼ばれる部隊が配置されました。陸軍特別攻撃隊の基地として知られる知覧飛行場には、当時の施設が残るとともに、隊員と地域の人々との交流を伝える品々も伝えられています。

関連文化財群④

「太平洋戦争と南九州」



歴史文化の特徴

南薩の生業に関する歴史文化

薩摩半島南部は、「職人の宝庫」と呼ばれ、江戸時代に培われた建築技術や手工業は現在も様々な分野で伝承・活用されています。近世には豊富な砂鉄を用いて山間部で製鉄・鍛冶が行われ薩摩藩の近代化の一助となりました。

農業に不向きな火山灰地形が広がっていますが、人々は知恵と工夫で農地を開拓し、緑豊かな大地となりました。田の神・水神等の石造物には、当時の人々の苦勞と祈りが込められ、収穫を祝う祭礼も伝えられています。

関連文化財群⑤

「日々の暮らしと路傍の神々」



図7-3 南九州市の関連文化財群一覧

7-3-1. 関連文化財群①「山城から麓へ ～島津氏を支えた南薩の群雄～」

古来より薩摩半島は国内外を結ぶ結節点としての役割を果たしてきました。その支配を巡る合戦の古戦場や戦死者の供養塔が南九州市内各地に残されています。また島津氏の九州制圧を巡る戦いで、大きな役割を果たした重臣の佐多氏・頼娃氏をはじめとする家臣団の菩提寺跡や武具、古文書が残り当時の武士の活躍を伝えています。

江戸時代に入ると薩摩藩の「外城制度」により地頭仮屋・領主仮屋と武家集落の「麓」が形成され、政治・文化・信仰の中心として大きな役割を果たしました。これらの武家文化は現在も南九州市の歴史文化に大きな影響を与えています。

中世城館

本市には、シラス台地の急峻な地形を利用した中世の山城が数多く残っています。その中でも、島津氏分家の佐多氏（後の知覧島津氏）の居城であった「知覧城跡」は、平成5（1993）年に国の史跡に指定され、九州南部を代表する山城として知られています。断続的に発掘調査が実施され、海外交易によってもたらされた陶磁器片をはじめ、様々な出土品をミュージアム知覧で収蔵・展示しています。近年は、「日本続百名城」に選ばれ、また出城とされ

る「亀甲城跡」(市指定)とともに、日本遺産「薩摩の武士の生きた町」の構成資産として知名度が向上しており、来訪者が年々増え、ボランティアガイドによる説明も始まりました。

颯娃地域の主郭である「颯娃城跡」は、島津氏の三州統一を支えた颯娃氏(伴姓)の居城で、初めてヨーロッパに紹介された日本の城郭です。旧颯娃町時代に本丸等の発掘調査を行い、土塁や空堀等が良好に残っていることが分かりました。

川辺地域の「平山城跡」は、一時期は薩摩守護職の島津総州家の居城としても使われた他、島津相州家の家老が城主を務めました。また、室町時代に島津氏同士の2度の大きな合戦の舞台となり、合戦で戦死した武将の供養塔等が周辺に見られます。開発等により城郭自体の残存状態は悪いものの、『旧記雑録前編』『島津国史』等に関連する史料や記事や、発掘調査報告書の成果から、ある程度の復元が可能です。また、発掘調査の出土品はミュージアム知覧に収蔵されています。

周辺には「松尾城跡」(市指定史跡)・「田部田陣跡」「野間陣」「高田城跡」等の中世城郭群が平山城跡を取り巻くように配置され、平山城を中心とした防御網が形成されていたと考えられます。

本市の中世城郭の中で、最も古い14世紀中盤の史料に登場するのが「松尾城跡」です。室町時代以降は平山城の出城に位置付けられ、平山城主の重臣が城主を務めていた「松尾城跡」と、万之瀬川対岸の台地に築かれた陣跡の「古殿諏訪陣」は、どちらも良好に遺構が残っています。特に古殿諏訪陣跡は、発掘調査を行った数少ない陣跡です。

古殿諏訪陣跡には、伊集院頼久建立の古殿諏訪上下大明神社に由来する「天御中主神社」、松尾城には守り神として建立されたと伝わる「松尾神社」が存続し、それぞれ「古殿太鼓踊り」「野崎棒踊り」の奉納が続けられています。同様に、他の山城跡周辺には中世・近世に起源をもつ神社や寺跡等が分布しており、中世武士の信仰の一端に触れる事もできます。

仮屋と麓

江戸時代になると、薩摩藩は藩内を113の外城(郷)に分け、山城から役所である地頭仮屋・領主仮屋へ行政の中心が移り、その周囲に武家集落の「麓」が形成され



写真5-1 知覧城跡



写真5-2 勝目城跡



写真5-3 平山城跡



写真5-4 宝福寺(石段)



写真5-5 善積寺跡

ました。

本市には4箇所の麓が設置されており、そのうち知覧は「南九州市知覧重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。地区内には7つの武家庭園からなる「知覧武家屋敷庭園」（国指定名勝）や近世の建造物等が所在します。また各家に伝わっていた武具や掛け軸等の美術工芸品は、ミュージアム知覧に寄贈・寄託され、常設展示や企画展で展示されています。

額娃麓は、建築年代が近世まで遡る建造物は少ないものの、玉石積の石垣や当時の道幅を残す小路、菩提寺跡等がコンパクトにまとまっています。

川邊麓は平地に築かれたため、石垣ではなく石塀が多く残っています。また万之瀬川から引いた用水路が麓内を流れており、生活用水としての利用の他に防御施設としての役割をもっていたと推測されています。多くの家は建て替えられていますが、近世末に建築された建造物も数件残っている他、小さな通り等に石垣・石塀が良好に残っています。

山田麓は他の麓と比べると規模は小さいものの、近世末から近代に建てられた建造物が多く残っています。川邊麓と同様、用水路が流れており、地頭仮屋跡、惣社の竹屋神社（王子神社）、祈願所の光明寺跡が麓周辺に隣接しているため、武家文化の痕跡と自然の豊かさを楽しみながら街歩きできます。



写真5-6 佐多直忠氏住宅附腕木門目隠し



写真5-7 森重堅氏住宅オモテ附蔵

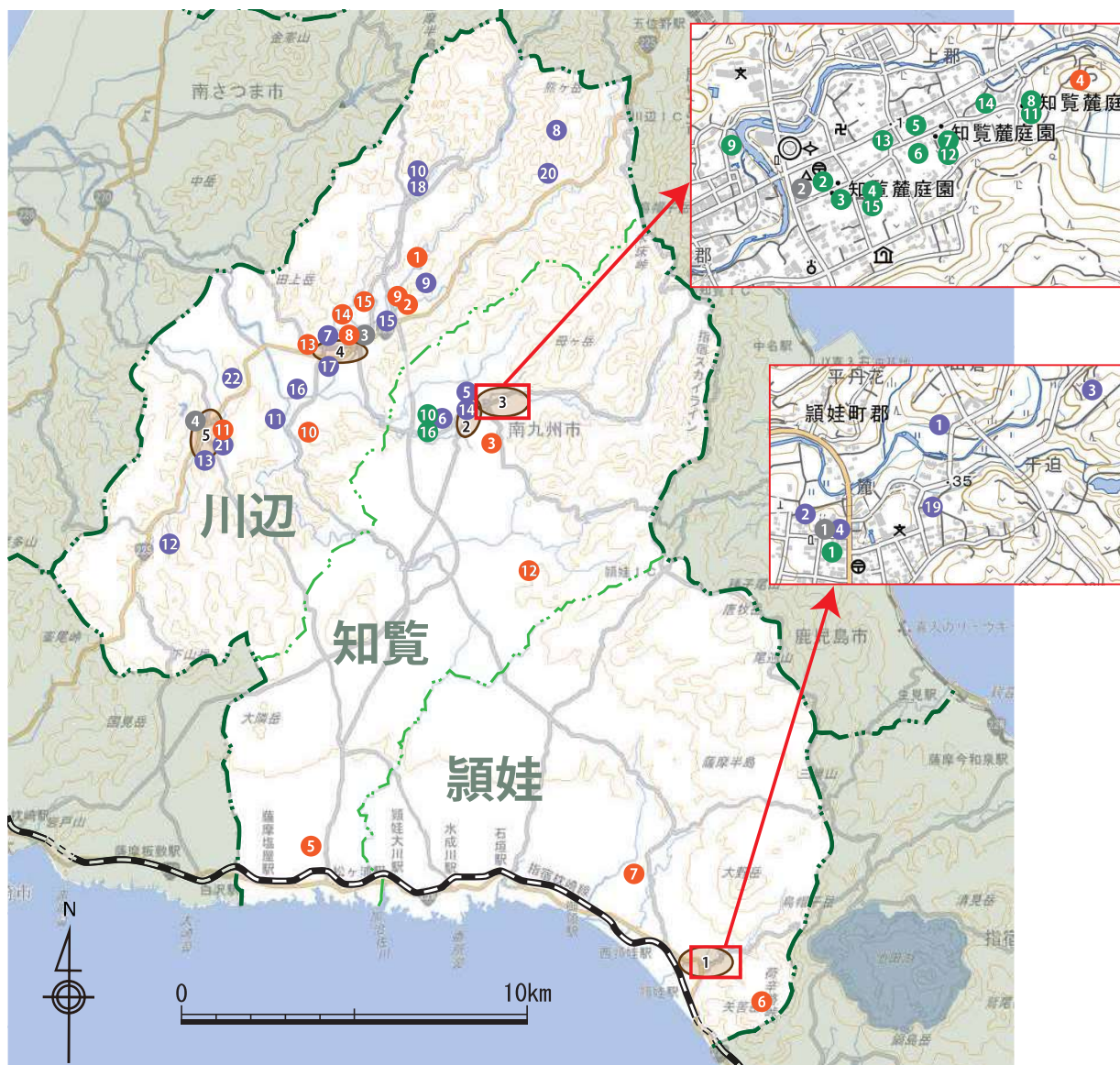
表7-1 「山城から麓へ ～島津氏を支えた南薩の群雄～」を構成する文化財群

	地域	地域資源名	時代	分類	指定等
城館跡	川辺	河辺氏居館跡	中世	記念物	市指定
	川辺	馬場田遺跡	中世	記念物	-
	知覧	知覧城跡	中世	記念物	国指定
	知覧	亀甲城跡	中世	記念物	市指定
	知覧	南別府城跡	中世	記念物	-
	額娃	額娃城跡	中世	記念物	県指定
	額娃	猫城跡	中世	記念物	-
	川辺	平山城跡	中世	記念物	市指定
	川辺	松尾城跡	中世	記念物	市指定
	川辺	高田城跡	中世	記念物	-
	勝目	勝目城跡	中世	記念物	市指定
	知覧	為朝陣	中世	記念物	-
	川辺	田部田陣跡	中世	記念物	-
	川辺	野間陣跡	中世	記念物	-
	川辺	古殿諏訪陣跡	中世	記念物	-
仮屋	額娃	額娃地頭仮屋跡	近世	記念物	市指定
	知覧	知覧領主仮屋跡	近世	記念物	-
	川辺	川邊地頭仮屋跡	近世	記念物	-
	川辺	山田地頭仮屋跡	近世	記念物	-

表7-2 「山城から麓へ ～島津氏を支えた南薩の群雄～」を構成する文化財群

	地域	地域資源名	時代	分類	指定等
麓	穎娃	穎娃麓	近世	その他	-
	知覧	知覧旧麓	近世	その他	-
	知覧	知覧麓	近世	その他	国選定
	川辺	川邊麓	近世	その他	-
	川辺	山田麓	近世	その他	-
庭園・建造物	穎娃	上野家庭園	近世	名勝	-
	知覧	西郷恵一郎氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	平山克己氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	平山亮一氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	佐多美舟氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	佐多民子氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	佐多直忠氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	森重堅氏庭園	近世	名勝	国指定
	知覧	大心寺庭園	近世	名勝	-
	知覧	宮原直二氏庭園	近世	名勝	-
	知覧	森重堅氏住宅	近世	有形（建造物）	県指定
	知覧	佐多直忠氏住宅	近世	有形（建造物）	県指定
	知覧	知覧型二ツ家民家	近世	有形（建造物）	市指定
	知覧	旧高城家住宅	近世	有形（建造物）	-
	知覧	平山亮一氏住宅	近世	有形（建造物）	-
	知覧	宮原直二氏住宅	近代	有形（建造物）	-
菩提寺・祈願所	穎娃	大通寺跡	中世	記念物	市指定
	穎娃	証恩寺跡	中世	記念物	市指定
	穎娃	安養寺跡	近世	記念物	国選定
	知覧	西福寺跡	近世	記念物	市指定
	知覧	持宝院跡	近世	記念物	市指定
	川辺	玉泉寺跡	近世	記念物	-
	川辺	宝福寺跡	中世	記念物	市指定
	川辺	宝光院跡	中世	記念物	市指定
	川辺	瑞朝寺跡	近世	記念物	国指定
	川辺	西山観音寺跡	中世	記念物	-
	勝目	善積寺跡	中世	記念物	市指定
	勝目	光明寺跡（光明寺池）	近世	記念物	-
	知覧	島津墓地	近世	記念物	市指定
	川辺	明山塔	近世	記念物	市指定
	川辺	和泉直久塔	近世	記念物	市指定
	川辺	和泉忠次塔	近世	記念物	市指定
	川辺	宝篋印塔	近世	記念物	市指定
	穎娃	鯨島因幡守供養塔	中世	記念物	市指定
	川辺	市之瀬	中世	記念物	市指定
	川辺	大野氏供養塔	中世	記念物	-
	川辺	大野忠宗夫人の墓	中世	記念物	市指定





● 城館跡

- 1 河辺氏居館跡
- 2 馬場田遺跡
- 3 知覧城跡
- 4 亀甲城跡
- 5 南別府城跡
- 6 穎娃城跡
- 7 猫城跡
- 8 平山城跡
- 9 松尾城跡
- 10 高田城跡
- 11 勝目城跡
- 12 為朝陣
- 13 田部田陣跡
- 14 野間陣跡
- 15 古殿諏訪陣跡

● 麓

- 1 穎娃麓
- 2 知覧旧麓
- 3 知覧麓
- 4 川邊麓
- 5 山田麓（勝目麓）

● 庭園・建造物

- 1 上野家庭園
- 2 西郷恵一郎氏庭園
- 3 平山克己氏庭園
- 4 平山亮一氏庭園
- 5 佐多美舟氏庭園
- 6 佐多民子氏庭園
- 7 佐多直忠氏庭園
- 8 森重堅氏庭園
- 9 大心寺庭園
- 10 宮原直二氏庭園
- 11 森重堅氏住宅
- 12 佐多直忠氏住宅
- 13 知覧型ニッ家民家
- 14 旧高城家住宅
- 15 平山亮一氏住宅
- 16 宮原直二氏住宅

● 菩提寺・祈願所

- 1 大通寺跡
- 2 証恩寺跡
- 3 安養寺跡（中世）
- 4 安養寺跡（近世）
- 5 西福寺跡
- 6 持宝院跡
- 7 玉泉寺跡
- 8 宝福寺跡
- 9 宝光院跡
- 10 瑞朝寺跡
- 11 西山観音寺跡
- 12 善積寺跡
- 13 光明寺跡（光明寺池）
- 14 島津墓地
- 15 明山塔
- 16 和泉直久塔
- 17 和泉忠次塔
- 18 宝篋印塔
- 19 鯨島因幡守供養塔
- 20 市之瀬
- 21 大野氏供養塔
- 22 大野忠宗夫人の墓

● 仮屋

- 1 穎娃地頭仮屋
- 2 知覧領主仮屋
- 3 川邊地頭仮屋
- 4 山田地頭仮屋

図7-4 関連文化財群「山城から麓へ ～島津氏を支えた南薩の群雄～」(国土地理院地図に加筆)



7-3-2. 関連文化財群②「南薩の寺社～受け継がれた人々の祈り～」

薩摩半島南部は、開聞神にまつわる神社が点在し、現在も地域の人々の心の拠り所としての役割を果たし、現在も近世から続く無形民俗文化財が奉納され、支配者から奉納された国内外の珍しい品々が伝えられています。

仏教史跡

薩摩藩では浄土真宗（一向宗）への厳しい弾圧が行われ、人々は隠れ念仏という形で信仰を続けました。明治時代には廃仏毀釈ですべての寺院が破壊されるという苦難の歴史がありました。溶結凝灰岩を用いた中世以来の石造物は、情報が乏しい廃仏毀釈以前の信仰の様子を伝えるものです。

鹿児島県では、明治初めの廃仏毀釈によって全ての宗派の寺院が廃寺となりました。仏教の信仰が許可された明治9（1876）年以降も寺院の多くは復活する事なく、江戸時代に禁止されていた浄土真宗が広まりました。

失われた信仰や仏教文化を私たちに伝える遺跡が数多く残されています。川辺地域の「清水磨崖仏」（県指定史跡）は、平安時代末期から明治20年代（1887～1896）までの長期間にわたり、様々な目的で彫刻された磨崖仏塔群で、明治時代以前の人々の祈りをま伝える仏教史跡です。

清水磨崖仏周辺には、中世から近世に建立された多くの寺院跡があり、寺跡に残る古石塔類は、中世・近世の仏教信仰を伝えています。創建が中世まで遡り、運営に寺院が関与していたと推定される神社も所在しており、中世以来の神仏習合の痕跡を示しています。

江戸時代には、各郷に「菩提所」と「祈願所」が設置されました。本市域に含まれる4郷では、菩提所は曹洞宗、祈願所は真言宗の寺院が設置されていました。各地域の菩提所・祈願所については、額娃郷が「証恩寺」「安養寺」、知覧郷が「西福寺」「持宝院」、川邊郷が「玉泉寺」「宝光院」、山田郷が「善積寺」「光明寺」でした。同地域にはこれ以外にも、鎌倉時代に創建された「西山観音寺」、薩州三箇寺の一つで「薩摩高野」とも称された「宝福寺」、額娃氏（伴姓）の菩提寺の「大通寺」、川邊郷神殿村領主の新納氏菩提寺の「瑞朝寺跡」等、武士層と結びつき栄えた寺院が多くありました。しかし、先述したとおり廃仏毀釈により破壊され、建造物等はほぼ現存していません。ただ、石仏、石塔、石垣等の石造物は残存していることから、現地で繁栄していた頃に想いを馳せる事ができます。

江戸時代、薩摩藩は浄土真宗の信仰を禁じていましたが、密かに信仰を続ける人々がいました。これを「隠れ念仏」といいます。市内には夜にこっそりと念仏を拝んだとされる洞穴（隠れ念仏洞・カクレガマ）がある他、海に面した地域では、夜に船で沖に漕ぎ出して拝んでいたとされます。また信仰対象としての「御絵像」



写真7-8 清水桜元のかくれ念仏跡



写真7-9 善積寺跡の仁王像



や小さな阿弥陀如来像等が伝わっており、現在はミュージアム知覧で収蔵・展示しています。隠れ念仏は旧薩摩藩領独特のもので、常設展示のあるミュージアム知覧に全国から浄土真宗の門徒の団体等が訪れています。

神社と祭礼

各郷には、総社（惣社）と呼ばれた、郷土や庶民の信仰を集めた神社があります。近世の額娃郷は枚聞神社（現在の指宿市開聞町）、知覧郷は「豊玉姫神社」、川邊郷は「飯倉神社」、山田郷は「竹屋神社（元 王子神社）」がそれにあたります。また現在の大字にあたる近世の村にも、それぞれ産土神として信仰されていた神社があります。これらの神社では、御田植祭りや豊祭（収穫祭）で「棒踊り」「太鼓踊り」が奉納されていました。近年は少子高齢化により活動を休止する保存会が増えつつありますが、現在も文化財指定されている団体を中心に、祭礼やイベント等で奉納・披露されています。

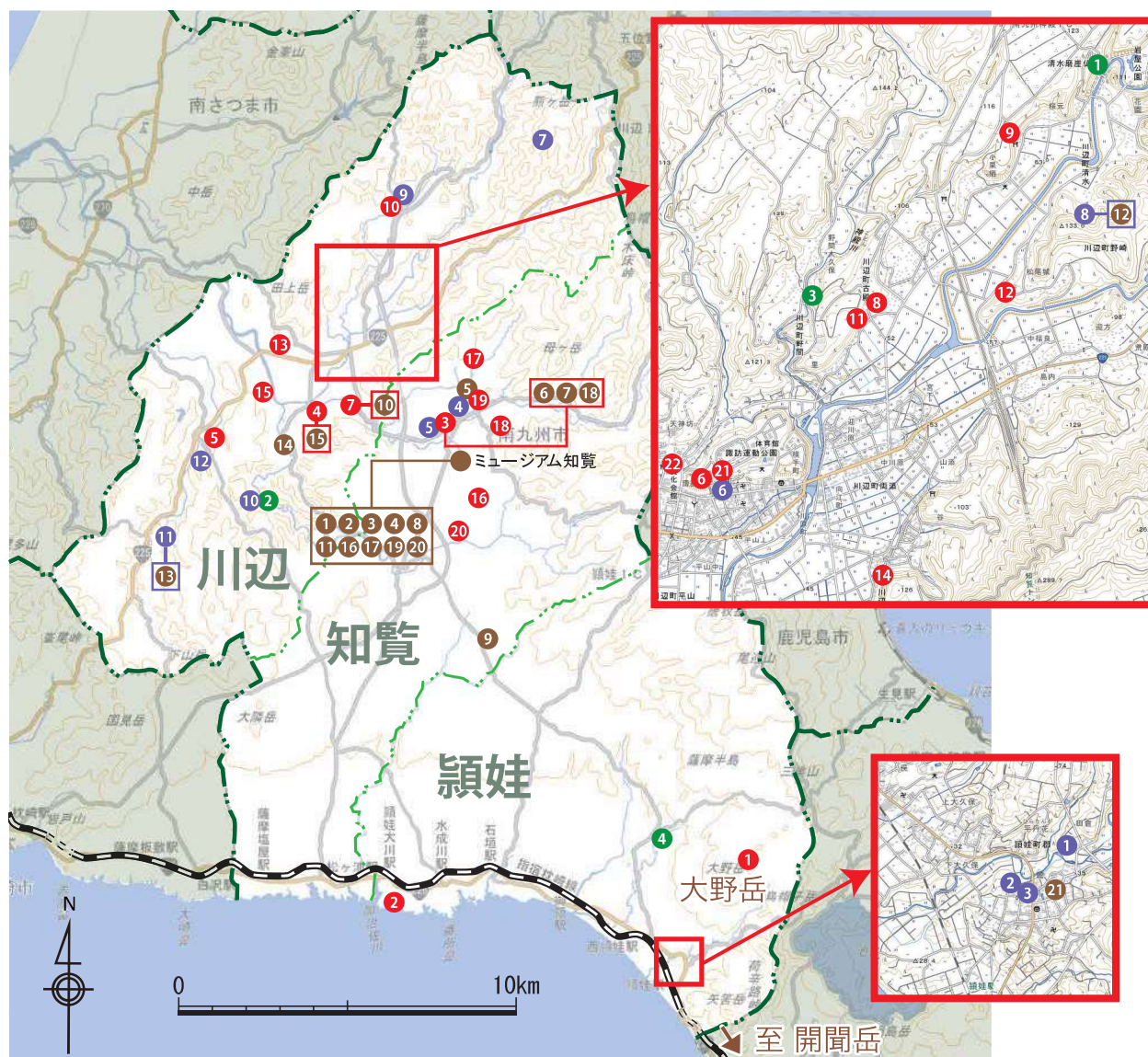
表7-3 「南薩の寺社～受け継がれた人々の祈り～」を構成する文化財群

地域	地域資源名	時代	分類	指定等
神社	額娃 大野岳神社	-	その他	-
	額娃 釜蓋神社	-	その他	-
	知覧 豊玉姫神社	中世	その他	-
	川辺 飯倉神社	中世	その他	-
	川辺 竹屋神社	中世	その他	-
	川辺 平山南方神社	中世	その他	-
	川辺 小野南方神社	中世	その他	-
	川辺 天御中主神社	中世	その他	-
	川辺 水元神社	近世	その他	-
	川辺 神殿九玉神社	中世	その他	-
	川辺 伊勢神社	近世	その他	-
	川辺 松尾神社	近世	その他	-
	川辺 田部田鎮守神社	近世	その他	-
	川辺 今田鎮守神社	近世	その他	-
	川辺 永田九玉神社	近世	その他	-
	知覧 白石神社	近世	その他	-
	知覧 松尾神社	中世	その他	-
	知覧 伊勢神社	近世	その他	-
	知覧 恵比須神社	近世	その他	-
	知覧 菅原神社	近世	その他	-
	川辺 八坂神社	近代	その他	-
	川辺 平山稲荷神社		その他	
神社 祭礼	知覧 豊玉姫神社の六月灯	-	無形民俗	-
	川辺 飯倉神社の御田植祭り	-	無形民俗	-
	川辺 平山稲荷神社の六月灯	-	無形民俗	-
	川辺 川辺祇園祭	-	無形民俗	-
	川辺 竹屋神社の豊祭	-	無形民俗	-
	額娃 大野岳神社祭礼	-	無形民俗	-
	川辺 田部田鎮守神社豊祭	-	無形民俗	-
	川辺 松尾神社豊祭	-	無形民俗	-

表7-4 「南薩の寺社～受け継がれた人々の祈り～」を構成する文化財群

	地域	地域資源名	時代	指定	備考
寺跡	頤娃	大通寺跡	中世	記念物	市指定
	頤娃	証恩寺跡	中世	記念物	-
	頤娃	安養寺跡	近世	記念物	市指定
	知覧	西福寺跡	近世	記念物	市指定
	知覧	持宝院跡	近世	記念物	市指定
	川辺	玉泉寺跡	近世	記念物	-
	川辺	宝福寺跡	中世	記念物	市指定
	川辺	宝光院跡	中世	記念物	市指定
	川辺	瑞朝寺跡	近世	記念物	国指定
	川辺	西山観音寺跡	中世	記念物	-
	川辺	善積寺跡	中世	記念物	市指定
	川辺	光明寺跡（光明寺池）	近世	記念物	-
磨崖仏	川辺	清水磨崖仏	中～近代	記念物	県指定
	川辺	高田磨崖仏	近世	記念物	市指定
	川辺	野間磨崖仏	未詳	記念物	-
	頤娃	伊瀬知の磨崖仏	近世	記念物	-
景観	市外	開聞岳	-	その他	-
	頤娃	大野岳	-	その他	-
彫刻・工芸品・絵画・歴史資料	知覧	火焰形剣	-	有形（美工）	市指定
	知覧	薬師如来像	-	有形（美工）	市指定
	知覧	神楽面	-	有形（美工）	市指定
	知覧	掛け面	-	有形（美工）	市指定
	知覧	仁王像・仏像	-	有形（美工）	市指定
	知覧	御神座像（木座像）	-	有形（美工）	市指定
	知覧	唐獅子	-	有形（美工）	市指定
	知覧	御佛像（木像）	-	有形（美工）	市指定
	知覧	御佛像（御本尊）	-	有形（美工）	市指定
	川辺	小野南方神社狛犬	-	有形（美工）	市指定
	知覧	カラス面（鼻高面・カルラ面）	-	有形（美工）	市指定
	川辺	宝光院跡の仁王像	-	有形（美工）	市指定
	川辺	善積寺跡の仁王像	-	有形（美工）	市指定
	川辺	高田観音堂の十一面観音像	-	有形（美工）	市指定
	川辺	飯倉神社の宋風獅子	-	有形（美工）	市指定
	頤娃	大野嶽神社の天神像及び八幡神像	-	有形（美工）	市指定
	知覧	親壺・瓶子	-	有形（美工）	市指定
	知覧	擬宝珠	-	有形（美工）	市指定
	頤娃	媽祖の画像	-	有形（美工）	市指定
	頤娃	竈蓋大明神社棟札	-	有形（美工）	市指定
	頤娃	鯨島因幡守宝篋印塔	-	有形（美工）	市指定





● 神社

- 1 大野岳神社（大野岳神社祭り）
- 2 釜蓋神社
- 3 豊玉姫神社（豊玉姫神社の六月灯）
- 4 飯倉神社（飯倉神社の御田植祭り）
- 5 竹屋神社（竹屋神社の豊祭）
- 6 平山南方神社
- 7 小野南方神社
- 8 天御中主神社
- 9 水元神社
- 10 神殿九玉神社
- 11 伊勢神社
- 12 松尾神社
- 13 田部田鎮守神社（田部田鎮守神社豊祭）
- 14 今田鎮守神社
- 15 永田九玉神社
- 16 白石神社
- 17 松尾神社（松尾神社豊祭）
- 18 伊勢神社
- 19 恵比須神社
- 20 菅原神社
- 21 八坂神社（川辺祇園祭）
- 22 平山稲荷神社（平山稲荷神社の六月灯）

● 寺跡

- 1 大通寺跡
- 2 証恩寺跡
- 3 安養寺跡
- 4 西福寺跡
- 5 持宝院跡
- 6 玉泉寺跡
- 7 宝福寺跡
- 8 宝光院跡
- 9 瑞朝寺跡
- 10 西山観音寺跡
- 11 善積寺跡
- 12 光明寺跡（光明寺池）

● 磨崖仏

- 1 清水磨崖仏
- 2 高田磨崖仏
- 3 野間磨崖仏
- 4 伊瀬知の磨崖仏

● 景観

- 1 開聞岳
- 2 大野岳

● 彫刻・工芸品・絵画・歴史資料

- 1 火焰形剣
- 2 薬師如来像
- 3 神楽面
- 4 掛け面
- 5 仁王像・仏像
- 6 御神座像(木座像)
- 7 唐獅子
- 8 御佛像(木像)
- 9 御佛像(御本尊)
- 10 小野南方神社狛犬
- 11 カラス面(鼻高面・カルラ面)
- 12 宝光院跡の仁王像
- 13 善積寺跡の仁王像
- 14 高田観音堂の十一面観音像
- 15 飯倉神社の宋風獅子
- 16 大野嶽神社の天神像及び八幡神像
- 17 親壺・瓶子
- 18 擬宝珠
- 19 媽祖の画像
- 20 竈蓋大明神社棟札
- 21 鮫島因幡守宝篋印塔

図7-5 関連文化財群「南薩の寺社～受け継がれた人々の祈り～」(国土地理院地図に加筆)

7-3-3. 関連文化財群③「海運商人と舶来品」

東シナ海に面する海岸線には、古代から知られる港を通じて、国内外の文化や品々が持ち込まれ、近世には薩摩藩の財政に大きく寄与しました。輸送を担った海運商人の屋敷や蔵には、関西方面や琉球（沖縄）、海外の品々が残されるとともに、骨粉の使用による農業生産額の拡大等、南九州市の文化や経済の発展に大きな影響を与えました。

穎娃・知覧地域には天然の良港が点在しており、古くから交易で栄えてきました。海運商人たちは各地を結び、各地の商品だけでなく文化の流入にも関与してきました。内陸の川辺地域でも、元代の青白磁や李氏朝鮮時代の象嵌が施された青磁の片鉢等、多くの優品が残されています。知覧の「豊玉姫神社」には東南アジアで使用されていた「蛇行剣（クリス）」等が伝来しています。中国の寧波で産出する「梅園岩」で作られた薩摩塔や宋風獅子が川辺地域に所在しており、中世前期に中国商人によって造立されたと推測されています。

仲覚兵衛は骨粉肥料を発明した人物とされ、骨粉を用いて菜種を栽培し菜種油を上方に売る事で富を築きました。また、当時藩内で禁止されていた浄土真宗を信仰する「隠れ念仏」の信者でもありました。仲覚兵衛屋敷は取り壊されましたが、蓋を外すと中に仏像や経典を隠していたとされる、「秘仏の柱」と呼ばれる柱がミュージアム知覧に収蔵されています。

「門之浦伝来絵幕」（県指定有形＜美工＞）は、『曾我物語』や『義経記』等を題材とした中世前期の様子が描かれており、中央から地方への文化の伝播を物語る貴重なものです。

関連文化財群は、表7-5、7-6のとおりです。

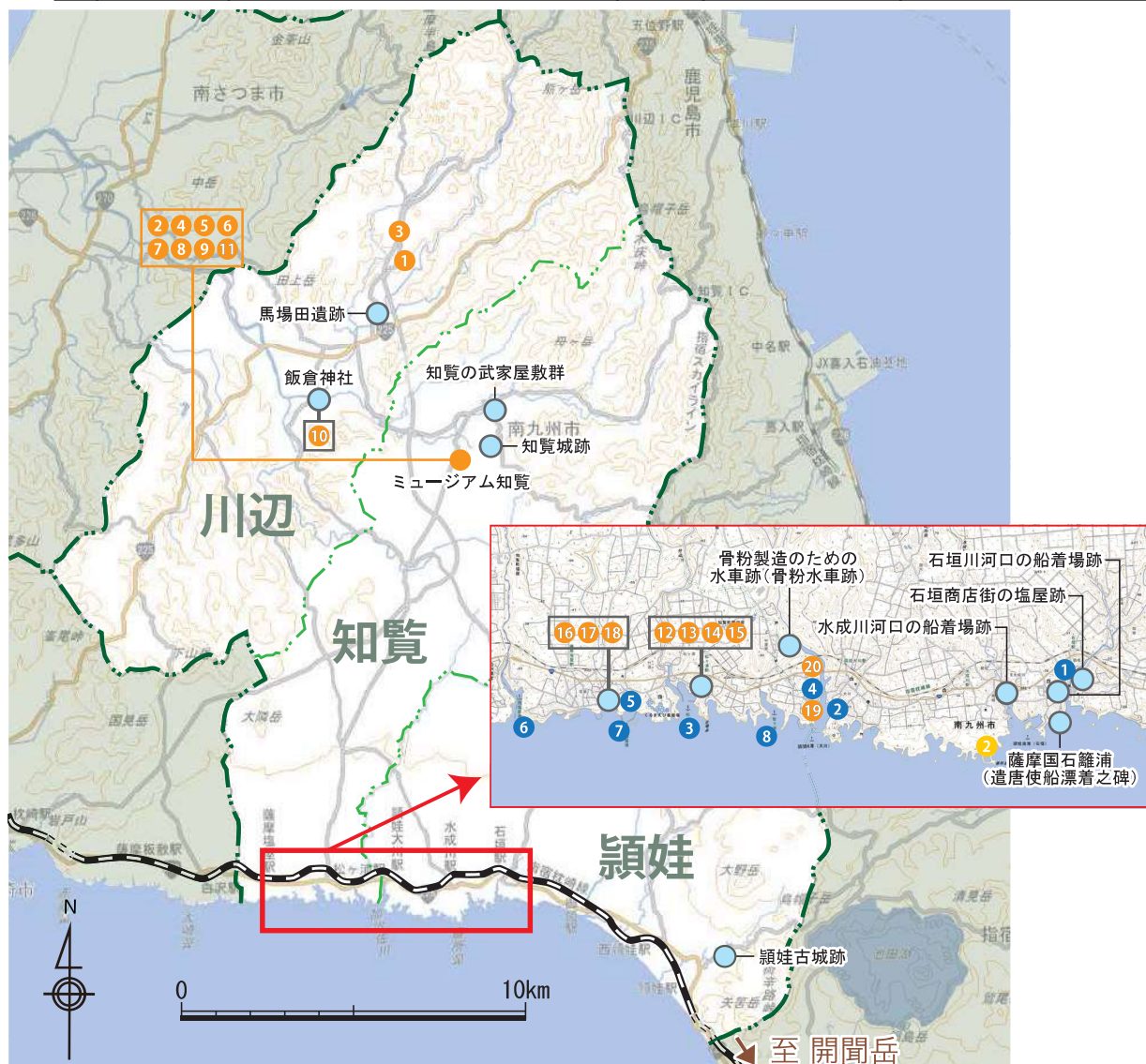
表7-5 「海運商人と舶来品」を構成する文化財群

	地域	地域資源名	時代	分類	指定等
交易・漁業	穎娃	石垣	-	その他	
	穎娃	大川	-	その他	
	知覧	松ヶ浦	-	その他	
	知覧	門之浦	-	その他	
	知覧	相之浦	-	その他	
	知覧	西塩屋	-	その他	
	知覧	東塩屋	-	その他	
	知覧	聖ヶ浦	-	その他	
その他	川辺	水元神社の薩摩塔	中世	民俗	市指定
	川辺	宝光院跡の薩摩塔	中世	民俗	市指定
	川辺	虎御前供養塔	中世	民俗	市指定
	川辺	馬場田遺跡出土品	中世	有形（美工）	
	知覧	知覧城跡出土品	中世	有形（美工）	
	穎娃	穎娃城跡出土品	中世	有形（美工）	
	川辺	宝福寺跡採集陶磁器片	近世	有形（美工）	
	川辺	飯倉神社の社宝	中世～	有形（美工）	
	知覧	火焰型剣		有形（美工）	市指定
	川辺	飯倉神社の宋風獅子	中世	有形（美工）	市指定
	穎娃	媽祖の画像	近代	有形（美工）	市指定
	知覧	安田家住宅主屋	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	安田家住宅土蔵 一	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	安田家住宅土蔵 二	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	安田家住宅門及び石垣	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	松下家住宅主屋	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	松下家住宅土蔵	近代	有形（建造物）	国登録



表7-6 「海運商人と舶来品」を構成する文化財群

	地域	地域資源名	時代	分類	指定等
その他	知覧	松下家住宅石垣	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	吉田家住宅土蔵	近代	有形（建造物）	国登録
	知覧	仲覚兵衛屋敷跡	近世	有形（建造物）	-
景観	市外	開聞岳	-	その他	-
	顚娃	番所鼻公園	-	その他	-



● 交易・漁業

- 1 石垣
- 2 大川
- 3 松ヶ浦
- 4 門之浦
- 5 相之浦
- 6 西塩屋
- 7 東塩屋
- 8 聖ヶ浦

● その他

- 1 水元神社の薩摩塔
- 2 宝光院跡の薩摩塔
- 3 虎御前供養塔
- 4 馬場田遺跡出土品
- 5 知覧城跡出土品
- 6 顚娃城跡出土品
- 7 宝福寺跡採集陶磁器片
- 8 飯倉神社の社宝
- 9 火焰型剣
- 10 飯倉神社の宋風獅子

● 景観

- 1 開聞岳
- 2 番所鼻公園

- 11 媽祖の画像
- 12 安田家住宅主屋
- 13 安田家住宅土蔵 一
- 14 安田家住宅土蔵 二
- 15 安田家住宅門及び石垣
- 16 松下家住宅主屋
- 17 松下家住宅土蔵
- 18 松下家住宅石垣
- 19 吉田家住宅土蔵
- 20 仲覚兵衛屋敷跡

図7-6 関連文化財群「海運商人と舶来品」（国土地理院地図に加筆）

7-3-4. 関連文化財群④「太平洋戦争と南九州」

太平洋戦争中、九州南部には多くの飛行場が建設され、特別攻撃隊の出撃に用いられた。また本土上陸作成に備えて「護南師団」と呼ばれる部隊が配置されました。陸軍特別攻撃隊の基地として知られる知覧飛行場には、当時の施設が残るとともに、隊員と地域の人々との交流を伝える品々も伝えられています。

知覧飛行場は、昭和 17（1942）年に大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所として出発しました。戦局の悪化に伴い特攻基地となり、400 機以上の特攻機が飛び立った歴史があります。戦後、飛行場の滑走路は茶畑や住宅地になりましたが、埋蔵文化財発掘調査を行い、調査報告書を刊行しました。飛行場周辺の「集団司令部跡」「三角兵舎跡」「掩体壕」「山砲座跡」の跡地には、石碑や説明版等が設置されています。



写真 7-10 陸軍四式戦闘機「疾風」

また、特攻隊員の遺書や飛行場建設の経緯に関する書類等の歴史資料は、知覧特攻平和会館が収集・展示しています。館内にある「陸軍四式戦闘機『疾風』」は、現存する唯一の機体として、市指定有形文化財（歴史資料）となっています。

平和公園周辺には、「防火水槽」「給水塔」「油脂庫」「弾薬庫」「着陸訓練施設」のコンクリート製の建造物が残っており、市指定文化財・国登録有形文化財等に指定・登録されています。飛行場周辺には、「集団司令部跡」「三角兵舎跡」「掩体壕」等が所在しています。

平和会館内の見学とともに、これらの史跡や建造物を巡るコースが確立されて、ボランティアガイドによる説明も行われ、多くの観光客が訪れています。

青戸飛行場（通称まのひ）は未完成のまま終戦を迎えましたが、飛行場周辺には掩体壕やトーチカ、防火水槽等の飛行場関連施設が残されています。いずれも現時点では文化財指定されていません。なお、近隣に所在する海軍の施設である「佐世保海軍通信施設」が市指定文化財となっています。未完成のため「幻の飛行場」とも呼ばれますが、遺構が良好に残っていることから、知覧飛行場跡と合わせて戦跡巡りで訪れる人も増えつつあります。

終戦間際の昭和 20（1945）年の春以降、連合国軍の本土上陸作戦に備え、薩摩半島南部地域には「護南師団」と呼ばれた第 146 師団が配備されました。川辺町平山の「司令部跡」の地下壕をはじめ、市内各地に「弾薬庫」「食糧庫」「高射砲陣地」が残っています。

本土上陸作戦に対し、水際での撃退を目的とする振洋艇を配備した基地が各地に設置されました。本市では知覧の南別府に「震洋特攻隊基地跡」があり、フィールドミュージアムの聖ヶ浦ポケットパークとして整備されています。こちらも、他の地域資源と組み合わせた街歩きスポットとしての活用が図られています。

関連文化財群は、表 5-7 のとおりです。